

【平成25年】

# 農業委員会通信

1

月号  
No.11

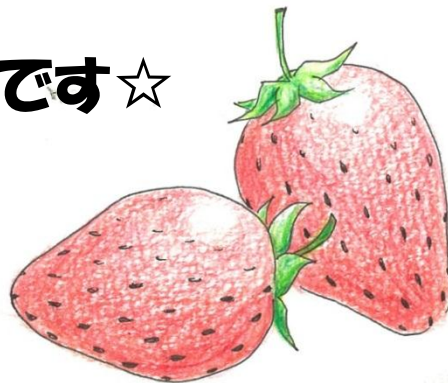
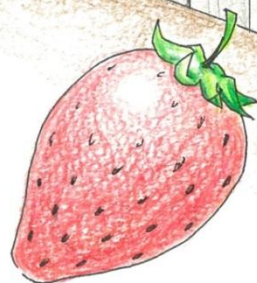
喬木村農業委員会

さあ、冬だ！いちごだ！

## 今月は、施設栽培特集！！

いちご狩りは…

来月1月11日より開園です☆





## 喬木村の施設栽培について

村民の方なら、毎日きつとご覧になっている農業用ビニールハウス！（以下「ハウス」と言います）。

このハウス内で栽培する方式の農業形態を「施設栽培」と考えてください。

今年で**28年目**を迎えるいちご狩り！いちごも施設栽培で行われています。

小川・帰牛原・伊久間にもたくさんのハウスがありますね。

そこで…以下の表（出典：2010年農林業センサスより）を見てください。

下伊那集計（野菜類販売目的のハウス）

市町村名	作付(栽培)農家数	作付(栽培)面積(a)
喬木村	54	603
松川町	50	385
高森町	45	290
阿智村	31	237
豊丘村	28	307
阿南町	26	214
下條村	13	64
泰阜村	9	99
大鹿村	8	56
売木村	8	47
根羽村	4	25
平谷村	3	17
天龍村	1	X

長野県内の数値（野菜類販売目的のハウス）

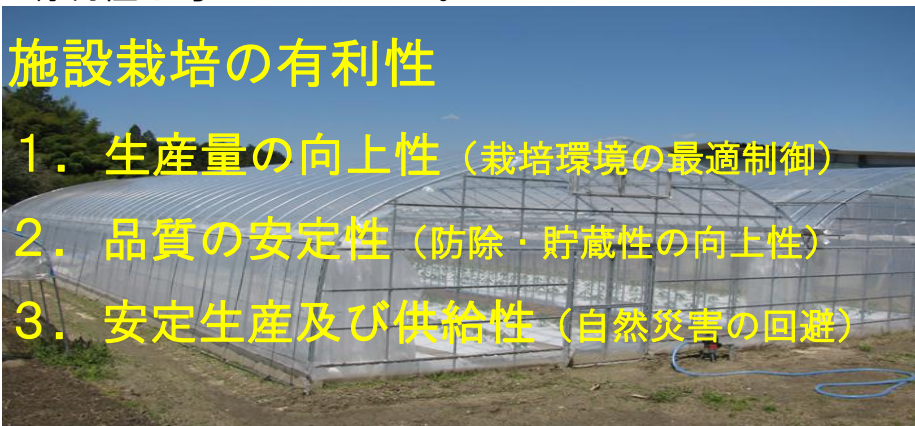
NO	市町村名	作付(栽培)農家数	作付(栽培)面積(a)
1	松本市	254	3 769
2	飯田市	293	3 448
3	原村	153	3 343
4	長野市	294	2 694
5	伊那市	160	1 648
6	中野市	105	1 527
7	安曇野市	133	1 327
8	茅野市	118	1 288
9	小布施町	56	959
10	塩尻市	55	718
11	喬木村	54	603

喬木村のハウス面積（販売目的野菜類）は、下伊那では **1位** 県下でも11位！ほとんどが耕地面積のある「市」であり、町村レベルでは、第**3位**となっています（花き栽培は集計外）。

ちなみに当村の経営耕地面積は、**55位**／77市町村です。決して耕地の広い村ではありません。急斜面にハウスは建ちません。なぜでしょう？施設栽培の有利性を考えてみました。

### 施設栽培の有利性

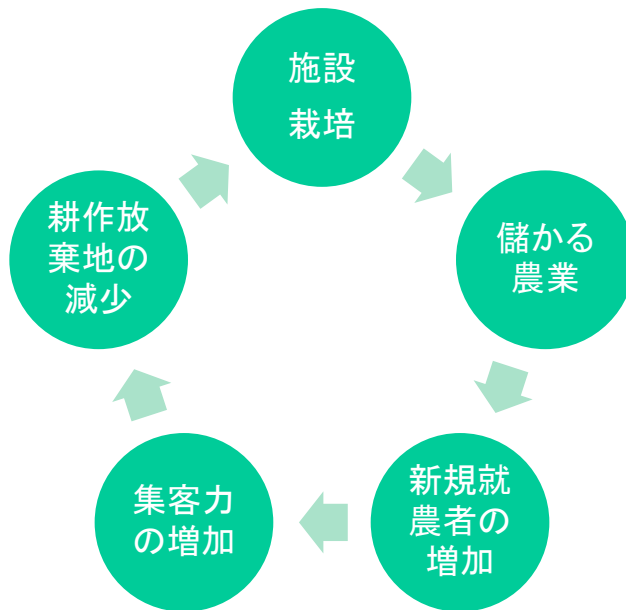
1. 生産量の向上性（栽培環境の最適制御）
2. 品質の安定性（防除・貯蔵性の向上性）
3. 安定生産及び供給性（自然災害の回避）



喬木村は狭い。  
だからこそ、面積あたりの農業生産額をいかに上げるかが争点



この答えとして、施設栽培がある  
施設栽培により、狭小な耕地でも収益性の高い農業が狙える！  
付加価値の高い・儲かる農業としての潜在能力がある！  
ハウスは、農業が成長産業であるための絶対の条件



以上のような考えに立脚して考えると、現状で施設栽培がさかんな喬木村は、先見性のある農業が展開されていると考えられます。

最近、農業者の高齢化により、新規就農者を村としてどう確保していくかが大きなテーマとなっています。新規就農者にとっても、施設栽培の有利性は、きっと経営上魅力あるものに映るはずです。事実、最近の喬木村で新規就農された方の多くが、施設栽培(いちご・きゅうり・花き)を行っています。未来の喬木村農業を切り拓く存在として、施設栽培をさらに、さらに発展させていく理由があります。施設栽培という喬木村の強みに磨きをかける必要があります。喬木村なら、できます！

是非、施設栽培に対するご意見をお寄せ下さい。

交流センター内  
喬木村農業委員会事務局  
TEL33-5126/FAX 33-3665

